地藏菩薩像

ヒノキの無垢材から彫り出された9世紀のこの仏像は、研究者によると、奈良県の大神神社の神宮寺大御輪寺から明治時代（1868～1912年）の初期に実施された神仏分離によって法隆寺に移された。地藏は、釈迦が入滅された後に弥勒菩薩が成道して、この世で説法をさせるまでの間の無仏の世に僧の形になって人々を救う菩薩である。つまり、すべての苦しむ者の祈りに対して、それがどんなに平凡な祈りであったとしても、聞く耳を持っている。